

◆昨年12月、私たちは難民申請者・仮放免者ら163人に、  
支援団体を通して支援金「一人3万円」を渡すことができました。

◆私たちは今月から「第二期支援」の準備を始めます。

## これからも一緒に生きていく証として

### ●渡邊さゆり (基金運営チーム/マイノリティ宣教センター共同主事)

昨年末、第一期目に基金から支援金送金直後のことです。取り次いでくださった方々が、口々に「今度はいつでしょうか」、「今回は特に緊急性が高い方に絞って申請しましたが、実はまだまだおられるんです」とおっしゃいました。私は、一期目には自分が知っている困窮者の申請をすることはできませんでした。

困窮度を支援者が決める歪さが、胸に刺さります。収入0円、病気や怪我で病院に行くことになっても診療は支援団体の医療相談か支援金を待たねばなら

ない、ましてや通院はできず体調は悪くなるばかりです。誰が先で後かなど、本当は決められません。

「あともう一人分でもあれば」と思い続けています。明日にでも強制的に帰国させられるかも知れぬ不安による精神的抑圧は、目には見えませんが相当です。

第二期目に向けて、皆さんに心から協力をお願いしたいです。一時金でしかないこの基金からの支援金は、「これからも一緒に生きていこう」という証であり、決意の表明です。

よろしくお願いいたします。

## 仮放免者「5人に1人は路上生活」の危機

### ●大澤優真 (北関東医療相談会)

#### ◆「生きていけない」現実

仮放免者は就労を禁止され、ほとんどの社会保障制度からも排除、「生きていけない」状況に追い込ま

れている。こうした実態は北関東医療相談会が2022年に発表した「仮放免者生活実態調査」でも明らかにされている。

しかしながら、その後、状況が改善されることはなく、むしろ悪化の一途をたどっている。支援団体のもとには「家を失いそうです」「ホームレス生活をしています、助けてください」といった待ったなしの訴えが日々押し寄せている。

支援にかかる費用はすべて持ち出し。支援団体が運営するシェルターは常に満室。辛うじて住居を確保できている人には路上生活にならないように滞納家賃支援をしているが、仮に1カ月5万円だった場合1年間で60万円、その金額を何人も何年も続けていく余裕は支援団体にはない。

結果として仮放免者からの悲痛な懇願を断ることになる。自殺を図った人。家賃の見返りに性的関係を強要されても耐え忍んでいる人もいる。救えない人が多すぎる。

こうした深刻な状況は今すぐに改善されなければならない。しかし、この状況これまで可視化されてこなかった。そこで、北関東医療相談会、ビッグイシュー基金、つくろい東京ファンドの3団体は、日本で初めて「仮放免者と住居」の実態を解明するための詳細な調査をおこない、実態を明らかにすることができた。報告書はつくろい東京ファンドのウェブサイトに掲載されている。

#### ◆「家賃負担苦しい」、維持も確保も困難

調査は2023年8～12月、仮放免状態の550人に支援団体などを通じて調査票を配布し、146件（26.5%・33の国と民族）の回答を得た。回答者のうち85%が難民認定申請者で、31%が未成年の子どものいる世帯だった。

調査ではまず始めに、家賃や電気ガス水道費の支払い状況について聞いた。家賃負担を「とても苦しい・苦しい」と答えた人は91%、電気ガス水道は86%であった。現に家賃滞納をしている人は46%、電気ガス水道は40%。過去に家賃滞納の経験がある人は66%、電気ガス水道は63%であった。仮放免者のほとんどが家賃などの支払いに悩み、実際に半数程度の人が家賃滞納をしている。

次に、住居の確保について聞いた。住居の確保が「とても大変・大変」と答えた人は70%。また、調査回答者の多くが、家賃を支払う際に「親戚親族・友人からもらう」「借金をする」「支援者・支援団体からもらう」と答えた。さらに、調査回答者の53%が、本人や家族以外の方が所有する住居で暮らしていることがわかった。

仮放免者の多くが住居を確保することに困難を抱えているが、そこには2つの困難がある。ひとつは家賃を払うことができずに援助してもらったり借金をせざるを得ないということ。もうひとつは、仮放免者は住民票など身分を証明するものを持つことが制限されているため、住居を本人名義で借りることが難しく、本人以外の名義の住居に暮らさざるを得ないということである。仮放免者は不安定な住環境で暮らさざるを得ない。

最後に、住居の維持について聞いた。「住居を維持できないかもしれない・すでに家を失っている・わからない」と答えた人は74%であった。そして、21%が「過去に家賃を支払えずに住居を失った経験がある」、22%が「過去に路上生活をした経験がある」と答えた。5人に1人の仮放免者が路上生活の経験がある。筆者はこの結果を見て、驚いたのと同時に、しかし、納得の数字でもあった。

#### ◆子どももホームレス化の危機に

仮放免者は家賃負担に苦しみ、実際に滞納している。援助してもらったり、借金をすることで住居の維持に努めるが難しい。住居の確保も難しく不安定居住のまま。結果として、5人に1人が路上生活。これが仮放免者の現実である。さらに、本調査の31%は未成年者を含む世帯。子どももホームレス化の危機にある。調査結果を踏まえて、引き続き「生きていけない」状況を変えるためのアクションを起こしていく。

\*本稿は、今春3月に発行される外国人 인권法連絡会『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書：2024年』に掲載される原稿を、大澤さんの快諾を得て、先行転載(?)します。 ●編集部

# 支援対象者の内訳に見る 難民申請者・仮放免者たちの現実・・・

◆昨年12月に実施した「第一期支援」の対象者は163人。その内訳は次の通りです。

○性別 男99人/女63人/無回答1人  
○年代別 0~9歳16人/10~19歳41人/20~29歳11人/30~39歳31人/40~49歳31人/50~59歳23人/60~69歳9人/70歳以上1人

○国籍別 トルコ54人/コンゴ共和国28人/ナイジェリア22人/カメルーン8人/ガーナ6人/ペルー5人/イラン5人/ウガンダ4人/スリランカ4人/ギニア3人/フィリピン3人/無国籍3人/ハンガリー2人/ブラジル・ブルンジ・リベリア 各2人/アメリカ・タイ・チリ・ネパール・パキスタン・マリ・ロシア・韓国・中国・南アフリカ 各1人

○難民申請別 難民申請中：112人/難民不認定の異議申し立て中：6人/難民不認定の取り消し訴訟中：1人/以前に難民申請をしたが不認定のまま：26人/これまで難民申請をしたことがない：16人/その他：2人

○在留資格別 在留資格なし(仮放免中)126人/特定活動3カ月：12人/特定活動6カ月：

8人/特定活動1年：1人/その他在留資格あり：16人

◆ここに見るように、国籍別一位ではトルコ54人(33%)となっていて、その多くがクルド人です。また難民申請別では約89%が、申請中か認定不許可の人びとです。在留資格別に見ても、仮放免中の人が77%となっています。それ以外の「在留資格あり」の人でも、一人一人その経緯が違っていても、きわめて切迫している状況に置かれていることが、支援申請書からうかがわれます。

◆なお、年代別一位が10代の41人(25%)となりますが、それは、支援申請団体の一つに「仮放免高校生奨学金プロジェクト」があったからと考えられます。ただ、それだけではなく、本国の迫害から逃れて日本に来たものの、難民鎖国の壁に阻まれて何回も申請し、何年も難民申請が認められない中で、その子どもたちが少しずつ増えてきた状況が反映しているように考えられます。

◆昨年一年間の難民申請者は1千人を超えるようですが、たとえ難民認定率が数パーセントへと上昇しても、難民不認定者が900人以上となり、また新たな仮放免者が生まれることとなります。これは難民申請者の問題ではなく、私たち日本社会の問題です。

●佐藤信行(基金運営チーム)

## 第1~2期 難民いのちの緊急基金 収支中間報告

(2023年8月6日~2024年1月31日)

＜収入の部＞			＜支出の部＞		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
献金	6,384,812	教会・団体・個人	支援金	4,890,000	@30,000×163人
			通信費	34,990	送料、振込手数料ほか
			事務費	58,137	チラシ印刷代ほか
			人件費	178,750	8月~2024年1月
合計	6,384,812		合計	5,161,877	

**収支残高:1,222,935円** 第2期支援を実施するには、あと300万円が必要です。

### 「難民いのちの緊急基金」に献金を送ってくださった教会・個人

(2023年8月6日~2024年1月31日)

外キ協/幼きイエス会(ニコラ・バレ)/横浜桐畑教会/日独ユースミッション2023/イエズス会 社会司牧センター/浦安教会/日本キリスト教協議会女性委員会/日本基督教団九州教区北九州地区ヤスクニ人権委員会/日本キリスト教団巣鴨ときわ教会/日本自由メソヂスト教団/日本聖公会東京教区人権委員会/キリスト者平和ネット/日本基督教団四街道教会/新発寒教会/カトリック大分教区カリタス/日本聖公会神田キリスト教会/三次教会/日本キリスト教婦人矯風会新潟/日本カトリック難民移住移動者委員会/宮古聖ヤコブ教会/日本福音ルーテル函館教会/日本キリスト教会北海道中区ヤスクニ・社会問題委員会/蒔田教会/日本基督改革派名古屋教会/日本キリスト教会夕張伝道所/大宮バプテスト教会/さよなら玄海原発の会・久留米/ヒロシマとメノナイトのともに集い合うセミナー/KMJチャリティ/北海道外キ連/NCC人権委員会参加者/日本聖公会仙台基督教会/日本福音ルーテルむさしの教会チャリティ

ーコンサート/日本バプテスト同盟野並キリスト教会/日本バプテスト連盟大分キリスト教会/日本バプテスト同盟寝屋川キリスト教会/日本福音ルーテル八王子教会/恵の丘長崎原爆ホーム/日本福音ルーテル宇部教会/日本キリスト教団月寒教会/日本福音ルーテル藤が丘教会/日本キリスト教会多摩地域教会/カトリック・カルメル修道会/日本バプテスト目白ヶ丘教会/日本聖公会東京教区聖マルコ教会/日本キリスト教会柏木教会/福岡女学院中学校/日ノ本学園高等学校/カナダ合同教会(UCC)/日本基督教団豊中教会/日本バプテスト大阪教会/日本バプテスト同盟関東学院教会/日本聖公会鹿児島復活教会/日本友会東京月会有志/日本キリスト教団下落合教会/下落合みどり幼稚園/日本福音ルーテル帯広教会/日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 CS/日本基督教団旭川豊岡教会/日本バプテスト連盟神戸バプテスト教会/日本バプテスト同盟駒込平和教会/日本バプテスト同盟瀬戸田バプテスト教会/日本基督教団横浜上原教会/日本バプテスト同盟高槻バプテスト教会/西南学院中学校高等学校後援会母の会/日本バプテスト同盟深川教会/日本基督教団市川三本松教会/日本バプテスト連盟日本バプテスト静岡キリスト教会/日本基督教団播州赤穂教会/日本基督教団千葉教会/日本基督教団新潟教会/日本基督教団倉敷教会/日本基督教団廿日市教会/日本基督教団宇和島中町教会/日本バプテスト連盟八王子めじろ台バプテスト教会/西南学院中学校・高等学校/日本バプテスト同盟日本バプテスト厚木教会/外キ協全国協議会参加者有志/日本バプテスト連盟大分キリスト教会/日本基督教団阿倍野教会/日本バプテスト連盟徳島キリスト教会/学習会/アーメンアクションほか 2 団体(匿名)/栗田英昭/岡田幸助/佐々木国夫/奈良いずみ/高橋礼子/井田泉/金成元/八木淳司/比企敦子/岸まち子/原科浩/秋葉正二/竹内正幸/今給黎真弓/田村義明/大倉一美/大曲由起子/岡田富美子/松橋敦子/北村恵子/石塚多美子/大内絵美/小谷野聖枝/薄井遥/秋山成子/日笠山古之/山内英子/渡邊さゆり/吉田雅尚/李省展/濱野敏子/渡辺輝夫/齊木登茂子/藤田美土里/横山陽子/潮江亜紀子/中村登紀子/三好祐輝/日高門/秋山道子/李明生/デイビットマッキントッシュ/河内理恵/洪秀任/金長壽/星山京子/飛田雄一/岡田薫/吉高叶/森山信三/山本二三子/古賀清敏/丹野信子/長谷川洋一/松村光司/藤田誠/中村証二/吉田絵理子/真下弥生/松本千恵/高橋愛/張征峰/細井留美/大西晴子/小池善/佐藤信行/川内裕子/斎藤幸義/森小百合/三吉小祈/古田真帆/飯高京子/元百合子/土井しのぶ/クボコウヘイ/石谷恵之/上西創造/長尾有起/フクイキエコ/虎川清子/川野安子/野副めぐみ/市川佐代子/李清一/本間勝/杉山佳奈子/鈴木律代/高本由美/刀祢館美也子/高谷幸/柴田朋子/鎌田治子/斎藤成二/山岸素子/栗田隆子 ほか 25 名(匿名)

献金合計額:6,384,812 円 感謝



対面集会&オンライン  
なかまの声を聴く



ぜひご参加ください

日時:2月18日(日)16:00~18:00

会場:日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会(JR山手線「目白駅」から徒歩8分)

申込:対面・オンラインともに、申込フォーム(右記QRコードまたはURL)にてお申し込みください。 <https://forms.gle/zUdLSxGwcNbGVgCu9>



●プログラム

【第一部】 難民・移民基金の活動報告&難民・移民をめぐる状況について

【第二部】 難民・移民の当事者、支援者の声を聴こう

【第三部】 私たちの声と思いを分かち合おう&私たちのアクションを語ろう



ここのか祈禱会



ぜひご参加ください

毎月9日19:30~20:00、難民・移民基金につながるひとたちと共に、祈り・分かち合うひとときをオンライン(Zoom)でもちます。基金報告、発題や証し、参加者同士の分かち合いなど。

どなたでもお気軽にご参加ください。(2023年11月~2024年7月9日まで)

第5回目は、**3月9日(土)19:30~20:00**

【内容】基金報告/発題/分かち合い

●Zoomリンクはこちら

ミーティング ID: 815 7644 8847

パスコード: 798850



◆「難民・移民基金」の最新情報は、外キ協ホームページ <http://www.gaikikyo.jp> をご覧ください。